

発行所 東京都文京区大塚町
2-1-6 桜蔭会館旧館内
社団法人 大学婦人協会
電話大塚 (941) 9210
編集兼 国田 百合子
発行日 昭和43年5月15日
(第71号)

J A U W

おもな記事

- 1面 第11回総会報告・奨学生募集
- 2面 42年度事業報告・支部報告・欧州旅行案内
- 3面 総会報告つづき・会員部計画・その他
- 4面 42年度決算報告・43年度予算

第十一回通常総会ひらく 開会のことば

会長 氏家寿子

春まさに酣、桜ざかり、しかも好天に恵まれましてここに、本会第十一回の国内総会を開くことができたのはまことに御同慶に存じます。

昨日の評議員会には既に北は北海道、南は長崎と、全国から各支部の御来集を得ました。また本日は会員みな様のお元氣な御顔が揃っておりました。力強く、嬉しく、しあわせを覚えるものでございます。

皆様、夙に御承知の通り、今年「世界人権年」で、IFUWにおきまして、そのテーマをもって、今夏カールスルイエで催される国際総会で真剣に討議され、婦人の立場よりこの共通の目的に誠意の約束が結ばれることをご望まします。本協会から代表者の方々をお送りしますために用意が完了された所でございませぬが、「地

第十一回通常総会記録

社団法人大学婦人協会

- 日時 昭和四十三年四月七日(日) 九時半
- 場所 東京都千代田区霞ヶ関国立教育会館
- 出席者 八〇名 委任状提出者四三七名 計五二七名
- 参加支部 札幌、仙台、茨城、群馬、東京、神奈川、静岡、新潟、愛知、京都、大阪、神戸、岡山、福岡、長崎
- 議長 氏家寿子
書記 福永サチ、南美枝子、吉村苺子、高橋きみ子
- 一、総会成立確認
 - 二、開会の辞 会長
 - 三、議決選出
 - 四、書記選出
 - 五、報告
 - (1) 総務報告
 - (2) 各委員会報告
 - (3) 支部報告
 - (4) 昭和四十二年度収支決算並びに資産状況報告
 - (5) 北村孝監事より監査の結果相違なしと報告(午前の部を終る)
 - 六、審議事項
 - 七、役付理事の選挙について
- (1) 役付理事選挙の経緯(若林花子) 選挙委員長 新役付理事及び監事の推せん、これを全員一致で承認
- (2) 役員選挙委員推せん承認
- (3) 有富 光子 (奈良女子大学)
永峰 すみ (聖心女子大学)
渡辺登志子 (大阪女子大学)
阿武喜美子 (お茶の水女子大学)
伊吹 知勢 (東京女子大学)
粕谷 よし (津田塾大学)
野見山不二 (日本女子大学)
- (4) 四十三年度予算案について財務委員長より説明、これを承認
- (5) 新加盟大学承認
- (6) 金城学院大学
公立薬科大学
清泉女子大学
- (7) 国内奨学生募集方法および奨学金増額について
- (8) 従来、地方支部は支部長宛に応募書類を送っていたが東京と同様に直接大学へ書類を送りたいという委員長の提案に対して、京都その他の支部長から支部長を通じた方がよいとの意見が出たので従来通りに行うこととした。尚、ホームズ奨学金の場合は会員数五〇名以上の大学に限られていて現在十校である。
- (9) 奨学金の増額については、出来れば増額して貰いたいという意見、増額の必要なしとする意見、又この奨学金は honor があるから金額にこだわる必要はないという意見等があり理事会で再検討することになった。
- (10) 四十三年度事業計画
- (11) 高等教育を受けた婦人の実態調査
- (12) 次回総会開催地について

の塩」となっております。とを信ずるものでございませぬ。しかし、今や日本は、秘められた優秀性を発揮するよう、二十一世紀の開幕をひかえ各方面から期待されております。

ことに五、〇〇万婦人の能力を啓蒙し活用し資すること、現在の急務といわれております。私共大学婦人協会としましては、この目ざぐるべき経済・文化の世界的変化ならびに、激しい流動の中にあつて大いにすべき使命を改めて痛感するのでございます。

本日は手を取り、心を寄せて楽しく語りあいたいと切に願っております。

およろこび

本会会長、氏家寿子氏に、このたび、勲三等瑞宝章を受けられた。先生は今後、大いに御期待申し上げ、御健勝をお祈りいたします。

ある報告と提案

上野しげ子

以上も前のことである。協会の会員数と英会話練習のグループを作った。そして協会に相談した。会の実際活動として会のためにやるべきではないかと思つた。これは理事会がこれを否決した。東京支部もまた国際理解と親善は御参考としたい。六年



氏家寿子会長

卒業生が多いから若い会員の獲得に努力して下さるよう仙台支部に望む(辻委員長)

(a) 社会で今一番不足しているのは教育の手である。JAUWの会員は四十五才一六十五才の方達で Substitute Teachers の組織を作つて貰いたい。世間はJAUWを非常に高く評価している(山崎文子)

(b) 大学婦人協会のあり方について認識してほ

(c) 講演会の参加人数が少な過ぎる。その反省の会なども開いたらよいと思う。(小野寺東京副支部長)

(d) 講演会を開く時は他の婦人団体に呼びかけて共催にすればよいと思ふ(野見山)

(e) 席上募金一万八千八百二十円也(ホームズ奨学金に内れる)

(f) 閉会の辞 議長 氏家 寿子

(g) 昭和四十三年四月七日 社団法人大学婦人協会

(h) 会長 氏家 寿子

(i) 書記 福永 サチ

(j) 南 美枝子

(k) 吉村 苺子

(l) 高橋きみ子

(m) 高橋きみ子

「加盟大学」という名称を今後「大学婦人協会」に改める

(5) 資金の融資について

(6) 事務所設置のため基本金の内から五百万円までは時に応じて融資することを承認

(7) 国内奨学生募集方法および奨学金増額について

(8) 従来、地方支部は支部長宛に応募書類を送っていたが東京と同様に直接大学へ書類を送りたいという委員長の提案に対して、京都その他の支部長から支部長を通じた方がよいとの意見が出たので従来通りに行うこととした。尚、ホームズ奨学金の場合は会員数五〇名以上の大学に限られていて現在十校である。

(9) 奨学金の増額については、出来れば増額して貰いたいという意見、増額の必要なしとする意見、又この奨学金は honor があるから金額にこだわる必要はないという意見等があり理事会で再検討することになった。

(10) 四十三年度事業計画

(11) 高等教育を受けた婦人の実態調査

(12) 次回総会開催地について

現在、基本金は九三〇万で毎年二〇万位基本金に繰り入れていられるべく早く目標額の壹千万円に達するようにしたい。

(一) 国際第一と第二の仕事内容の相違について質問があり

「第一は IFUW 関係の第二は 主として NGO 関係の仕事であるが、IFUW 関係以外のあらゆる国際的な仕事にまで及ぶことが望ましい」と北村監事から説明があった。

(a) 支部からの希望

(b) 支部のない地方へ転居した場合は、出来るだけそこへ新支部を作つてほしい(仙台)

(c) (急に)支部を作ることは困難である(黒沢副会長)から、この場合は本会直結の会員となればよい(野見山)

(d) 総会前に支部報告を全部会報に出してほしい(神奈川)

(e) 会員が名古屋へ転居した場合はその会員所属支部の支部長からご連絡してほしい(愛知)

(f) その他

(g) 仙台には東北大学の

大学婦人協会一九六八年奨学生募集

国内奨学生募集「応募規定」

- 一、提出期間 一九六八年十月十五日まで
- 二、候補者の資格
- ① 女子学生 大学三年次の女子学生にして人物学力のすぐれた者
- ② 研究奨学生 一年以上本協会員であつて研究能力に優れ成績ある者(原則として四十才未満のもの)
- ③ 研究グループ 五人以内でグループを組織し、前項研究奨学生と同じ資格を有する者
- ④ 書類 (本協会用紙による)
- ⑤ 自筆履歴書
- ⑥ 健康診断書
- ⑦ 写真 (名刺版)
- ⑧ 作文 (八〇〇字以内)
- ⑨ 学生は専攻分野、あるいは将来への希望について。研究奨学生は研究計画と将来への希望について。
- ⑩ 学生は学長及び支部長の推薦状。
- ⑪ 研究奨学生及び研究グループは研究業績の別刷、研究指導者の推薦状、本協会員の紹介状及び支部長の推薦状。
- ⑫ その他
- ⑬ 地方支部に於ては、支部長はその支部所在の大学より提出された書類を支部会にて審査して学生一名選考し、研究奨学生及び研究グループには順位をつけて本部へ提出すること。
- ⑭ 東京支部は提出の書類を審査し、順位をつけて本部へ提出すること。
- ⑮ 奨学金を受けた研究奨学生及び研究グループは一年以内に結果につき本部に報告すること。
- ⑯ 社団法人 大学婦人協会
- ⑰ 会長 氏家 寿子
- ⑱ 国内奨学生委員長 美喜子

昭和四十三年度 役員選挙委員

野見山 不二

粕谷 よし

伊吹 知勢

阿武 喜美子

渡辺 登志子

永峰 すみ

有富 光子

氏家 寿子

黒沢 ミツ

竹内 和子

山崎 美子

福永 サチ

入江 サカエ

枝 幸子

片山 秀子

島 美喜子

青木 満里子

大島 清子

小杉 瑞里

杉 瑞里

植山 つる

中村 道子

昭和三十九年度 役員選挙委員

野見山 不二

粕谷 よし

伊吹 知勢

阿武 喜美子

渡辺 登志子

永峰 すみ

有富 光子

氏家 寿子

黒沢 ミツ

竹内 和子

山崎 美子

福永 サチ

入江 サカエ

枝 幸子

片山 秀子

島 美喜子

青木 満里子

大島 清子

小杉 瑞里

杉 瑞里

植山 つる

中村 道子

総会をおひきうけして

東京支部 今井 富美枝

月曜日の見学を全コース... 準備の第一段階として東京支部会員全員に出したアンケートの中に総会の会場見学場所についての意見の問合せを加えて、限られた数の支部委員ばかりでなく支部全員の御意見を参考にするのを試みました

総会に出席して

岡山支部 久山 比左子

このたび大学婦人協会の総会に岡山支部から柴山支部長様の代理として出席させていただきました... 岡山支部では地元岡山大学が加盟大学ではないので、この大きな悩みを席の方々の御博識と御熱意に深い感銘を受けて帰ってまいりました

四月八日皇居見学の記録

東京支部 篠田 玲子

宿舎に泊り込みで宿泊と乗物のお世話をして下さった藤崎さん、総会当日六階会場へ五階のお台所からお茶を運んだり、会場全般の整備に協力して下さいました支部の委員の皆様感謝しております

東京見学記

愛知支部 河合 文子

区の子供達の小学校入学前後的的情操教育の遅れについての研究をテーマに、週一回地元のサンノゼ州立大学の教育学部の先生においでいただき、研究を続けました

四月六、七両日にわたる皇居見学記... 皇居見学は、いよいよ新しい活動年度が始まりました

四月六、七両日にわたる皇居見学記... 皇居見学は、いよいよ新しい活動年度が始まりました

皇居見学記... 皇居見学は、いよいよ新しい活動年度が始まりました

皇居見学記... 皇居見学は、いよいよ新しい活動年度が始まりました

皇居見学記... 皇居見学は、いよいよ新しい活動年度が始まりました

皇居見学記... 皇居見学は、いよいよ新しい活動年度が始まりました

皇居見学記... 皇居見学は、いよいよ新しい活動年度が始まりました

上京された方々の宿舎である湯島会館についてみる... 湯島会館は、春の静かなロビーの、春の日射しのなかに、三々五々集まっておられる

皇居見学記... 皇居見学は、いよいよ新しい活動年度が始まりました

昭和43年度大学婦人協会予算案 (昭和43. 3. 1~昭和44. 2. 28)

昭和42年度大学婦人協会会計決算報告 (昭和42. 3. 1~昭和43. 2. 29)

会計 入江サカエ 枝キク子

Table with 4 columns: 取入之部 (Income), 支出之部 (Expenditure), 項 (Item), 金額 (Amount). It details budget items for the 43rd fiscal year, including income from assets and expenses for various activities.

Table with 4 columns: 取入之部 (Income), 支出之部 (Expenditure), 項 (Item), 金額 (Amount). It details the financial results for the 42nd fiscal year, showing actual income and expenditures.

資産状況

昭和43. 2. 29現在

会計 入江サカエ 枝キク子

Table showing asset status with columns for 科目 (Category), 金額 (Amount), 内容 (Content), and 備考 (Remarks). It lists various assets like cash, securities, and equipment.

基金利子明細書

(昭和42. 3. 1~昭和43. 2. 29)

Table showing fund interest details with columns for 銀行会社名 (Bank/Company Name), 元本金額 (Principal Amount), and 利子入金 (Interest Income).

福岡支部 中野 愛子
例年開催される福岡地区の総合婦人大会で大学婦人協会は今年「就業をめぐる婦人の能力開発」という課題を扱いました。以下そのテーマで問題提起を行なうたあましを記します。

充分申し得ているのではないでしようか。次に高卒の女子「就職希望者が商高で九六%、普通高で二二%、二八%、これらの女子がこの福岡の支店都市の事務を担う主力といえますが、求人側がこれと就職希望者数より上廻っている状態です。しかも、大抵が嫁入り前の腰かけ風な就職にもかかわらず大変恵まれた条件で勤めています。しかしこれは真に女性が能力を自由に伸し得る状態ではなく、求人難からくる会社側の甘やかしかつ多い見受けま



第11回総会記念

あ тогоき
第十一回の総会は、桜花爛漫の東京で盛況裡に開催、ここに、71号「総会特集号」をおくる日を満了となり、私の任期も本日で満了となり、杉野新理事にバトンをお渡しした時期が早くも到来した。
56号(39年11月発行)から、71号(43年5月発行)に至るまで、北村孝前会長並びに氏家寿子会長を始め多くの理事、役員、支部長、並びに会員諸師のたゆみないおはげましのまに、四ヶ年の大任を果たすことが出来、誠に感謝に堪えない。なかでも、67号には、「大学婦人協会」二六八号に本会の設立に寄与されたドクターホルムズのお便りを特集出来たことは本懐といたすところである。
本会の御発展と、会員各位の御多幸をお祈り申し上げ、一言御挨拶迄。
(報道部、国田記)

えすにはいられません。もし過去における職場の女性のために、現在も働いている女性の実績の貧しさの為に将来の大学卒の女性がますます就職という壁に打ちかかれないに打ち破らなければならぬ、その打ち破る手段が何処かに考えられてよいのではないでしようか。
絵会の一コマ